

## 低侵襲心臓手術（MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery）

従来、心臓手術は「胸骨正中切開」という胸の真ん中を切開し、胸骨という胸の中心にある骨を切る方法が主流でした。この方法は胸を大きく開くことができるため心臓のあらゆる場所を直接見て触れる事ができるので安全で確実な方法と考えられて来ました。その一方で、大きな傷が残り、胸骨も切るためワイヤーで骨の固定が必要なため術後2-6ヶ月間、荷重制限があり、社会復帰の妨げとなっていました。また、胸骨感染も一定の割合で見られ入院期間の延長につながる場合もありました。

この弱点を補うため胸骨を切らず肋骨の間から、もしくは胸骨の一部のみ切って視野を展開して心臓の手術を行う低侵襲心臓手術(Minimally Invasive Cardiac Surgery: MICS)が近年目覚しく発展し注目を集めています。MICSにより輸血率が下がり、入院期間が短くなり、社会復帰までの時間も短くなることはすでに証明されています。

ただし視野は制限され、人工心肺法も通常と異なるため全ての方にこの手術が適応できるわけではありませんが、最近の手術器機や内視鏡カメラなどの技

術の進歩により安全に低侵襲心臓手術が可能となっています。当院でもこの方法を採用し、患者さんの病態に応じて行っております。



従来の胸骨正中切開



MICS 直後創部（右小切開）

## MICS 適応

- 1、弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患、三尖弁疾患）
- 2、冠動脈バイパス手術（MIDCAB）
- 3、心房中隔欠損症
- 4、心臓腫瘍

MICS 僧帽弁形成手術の術中内視鏡画像



弁形成前の僧帽弁



弁形成後の僧帽弁